

---

# 雨と悪夢

kikiakiakia

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

雨と悪夢

### 【コード】

N6550U

### 【作者名】

kikiakakia

### 【あらすじ】

さくつと読める？短編。

雨の日に繰り返し見ている夢がある。

幼い私は、不用意に近づいた、川に落ちる。

川は連日の雨で、増水していて、流れも急だ。

流れを掻き分けることも出来ずに、私は流されていく。

急流の中で、もちろん呼吸も出来ずに、ただただもがくが、衣服が絡まり、私は動くことを諦める。

そして恐怖に怯える。流れ着き行く場所を知っているから。そこになにがいるかわかっているから。

赤く錆びた水門が見えてくる。そこが終着点だ。

そこに着いてしまうことだけは、嫌だとばかりにもう一度あがく。黒ずんだ水の中、小さな腕を振り回す。

無駄なのに。繰り返し返されてわかっていることなのに。

ぐんぐんと水門に引き寄せられる自分は見てしまう。

水門が、あれを川底に挟み込んでいるのを見てしまう。

白い着物をまとった白骨の女。腰から下を水門に挟まれて動けない女。

黒い長い髪は川底の水草と絡まり川の幅いっぱい広がっている。私が来るのを待ちわび、腕をこちらに伸ばしている。

流された私の足がまず捕らわれる。骨だけの指が食い込んでくる。冷たく、痛い。

そして私の肩に、腰に、女の髪が絡みつく。

声もなく女は私を抱きしめる。

逃げることはできない。

骨だけの頬が摺り寄せられ、私はやっとそこで死ぬのだ。

夢は不思議に私の死んだ後も続く。

家族や警察が川を捜索してくれる。サーチライトが自分に当たる。

しかし、誰も私の場所がわからない。

父親が泣いている。知った大人の顔も見える。

こんなに近くに沈んでいるのに、誰にも気づいてもらえない。

白骨の女がきつくきつく私を抱きしめる。

決して離さないとばかりに。

そんな夢を、また今夜も見る。

(後書き)

夏ホラ書いてみたかったけど、そもそもホラーが苦手だった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6550u/>

---

雨と悪夢

2011年10月7日01時56分発行